

校内研修のまとめとして研究発表会を行いました！

3年間取り組んできた道徳の校内研修も、いよいよまとめとなりました。今年度は感染予防対策の観点から道徳の授業についても例年通りの活動ができませんでしたが、このような時代だからこそ心の力を育む道徳科の時間を大切にしようという教員同士で声を掛け合い、一年間研修を進めてきました。各学年の児童の実態や扱う価値・教材文に合わせてどんな授業がよりよいのかを学年・ブロックの教員で話し合い、2学期を中心に全学年で研究授業を行いました。

1月29日（金）には、研究発表会を行いました。各学年で取り組んだ授業の内容を大きな模造紙にまとめ、その掲示物をもとに取り組みを発表しました。授業をつくるにあたり、どのように学年で話し合ったのか、どのような意図で授業をつくったのかということそれぞれの学年が発表することで、どの学年もまずは教員チームで十分に議論を重ねて授業づくりをしたのだということが伝わってきました。

今年度で校内研修としての道徳の取組は一区切りを迎えますが、来年度も道徳の授業は続きます。研修で学んできたことを道徳授業の中でいかし、子供たちが道徳的価値についてより深く考えられるように授業づくりを続けていきます。



このように職員全員で発表会をしました。学年に応じて様々な工夫を授業に取り入れていて、聞いてとても勉強になりました。





今回作成した各学年の研究授業のまとめは、南校舎1階の会議室前に貼りだします。来校された際には、ぜひご覧ください。

また、校内研修のまとめは学校HPに掲載します。そちらもぜひご覧ください。



情けは人のためならず

〇〇 〇〇

このことわざの意味を知っていますか？

「人に同情して優しくするのは、その人のためにならない。」

違います。間違いやすいのですが、本当は、

「人に親切にしておけば、巡り巡って自分に良い報いがある。」

なあんだ、結局自分のためか、自分が可愛いだけじゃないかと思われるかもしれませんが、私の考え方は少し違います。

優しくされると心が温かくなって、自分も誰かに親切にしたいと思いますよね。そんな温かい心が広がって、いつか自分の所に返ってくる、そんな世界になるといいなと思うのです。

少し調べましたら、これは大正4年発売の『一日一言』に載っているそうです。

“施せし情けは人の為ならず おのが心の慰めと知れ

我れ人にかけてし恵は忘れても ひとの恩をば長く忘るな “

「情けは他人の為ではなく自分自身のためにかけるものだ。だから自分が他人にした良いことは忘れてもいい。でも、人から良くしてもらったことは絶対に忘れてはいけないよ。」

なるほど、人に親切にすると、親切にされたほうはもちろん、親切をしたほうも、心が温かくなりますよね。自分も相手も幸せになれるんです！

この全文の意味を知って、私はますますこのことわざが好きになりました。

みんなが自然に人に親切にできるような、優しく温かい心で溢れる世界になるように願いつつ、この言葉を心がけて生活していきたいと思っています。